



令和3年度学校だより

甲府市立南西中学校

銀杏 (いちょう)

第15号

学校教育目標 「たくましい心と体もち 学び合える生徒の育成」

文責：校長 石井 敬

朝夕は大分涼しくなり、衣替え移行期間中の今は夏服の中に冬服がチラホラと見られるようになってきました。その光景はさながら“ダルメシアン”のようです。先週末は台風一過の秋晴れに恵まれ、より高さを感じるようになった青空を見上げると、体ごと空に吸い込まれていくような感覚を覚えます。折しも、全国各地に出されていた緊急事態宣言やまん延防止等の措置は9月いっぱい解除となったことにより、すがすがしい10月の気候とともに私たちの気持ちも幾分晴れやかになったように思います。もちろん、油断は禁物で、引き続き感染防止には気を引き締めていかなければなりません。

さて、10月というと「読書の秋」「スポーツの秋」「食欲の秋」「学習の秋」「行楽の秋」といった言葉に象徴されるように、何をするにも適した時季と言えます。そこに今年の南西中では「行事の秋」が加わります。新人戦、3年修学旅行、1年校外学習、いちょう祭と、10月は大きな行事が続くからです。すでに様々な取り組みは同時に並行して進んでいるため、子どもたちにとっては大変だと思います。しかし、新人戦では2年生を中心とした部活動でのまとまりが生まれ、修学旅行・校外学習を通じて3学年、1学年の絆が強まり、そしてトリとなるいちょう祭で全校の繋がりが確かなものとなるというストーリーが、これらの行事の連続性によって描けるような気がしているのは私だけでしょうか……。いや、きっと子どもたちも同じような思いを持ってそれぞれの行事に向かっているものと信じています。

その後押しをするのが私たちの役目。充実した10月、実り多い秋となるよう、私たちも子どもたちと一緒に頑張っていきたいと思っています。



## お知らせ

10月の行事と言え、もう一つ忘れてならないのが「合唱発表会（合唱祭）」です。年度当初の計画では10月30日に予定していましたが、音楽の授業を含め合唱活動がずっとできない状況が続いていることから、誠に残念ではありますが今回は見送りといたします。合唱は感染リスクが最も高い教育活動の一つに挙げられており、6月に地域感染レベルが「1」から「2」に引き上げられたことで合唱への取り組みは一層ハードルが高くなってしまいました。これまでもコロナを理由に簡単に諦めてしまうのではなく、どうやったらできるかという視点を大事に行事のやりくりをしてきましたが、現状を考えると、合唱についてはその一歩を踏み出した時のリスクが他の活動に比べまだまだ高いと判断しました。

しかし、合唱は南西中三大文化の一つであり、誰よりも子どもたち自身が“合唱をしたい”という気持ちを強く持っていることから、今後、3年生は卒業式に向けて、1・2年生は三年生に贈る会に向けて機を見ながら取り組んでいきたいと思っています。新規感染者数が落ち着きを見せ始めた今の状況が今後も安定して続き、南西中に子どもたちの歌声が響き渡る日を再び取り戻すことができるよう、今は、やるべきことをしっかり行ってその日に備えていきたいと思っています。



# いちょう祭に向けて始動！！



10月29日に延期となった「第55回いちょう祭」まではまだ1ヶ月もあるというのに、中間テストが終わったその日にブロック集会が行われました。目的はブロックとしての意気を高めるとともに、いちょう祭の取り組みについて理解することでした。

生徒会執行部の生徒にとっては、“まだ1ヶ月もある”ではなく“あと1ヶ月しかない”という思いから、ここでブロック集会を持つ意味を誰よりも感じていたはず。その思いは赤・青それぞれのブロック長にもしっかりと伝わっており、赤ブロック長の名執さんは「全員が心を合わせ、バージョンアップしたいちょう祭を“繋承”していきましょう！」と、また、青ブロック長の田中さんは「1回1回の練習を集中して、いちょう祭を盛り上げられるよう頑張ろう！」と力強い言葉で語りかけていました。それを聞く各ブロックメンバーの表情も真剣で、延期によってしぼみかけた意気込みが再び頭をもたげてきていたのではないかと思います。



活動の説明が一通り終わると、子どもたちは各教室に戻ってボディパーカッションのパート決めを行いました。ブロック合唱に代わるものとして、今年度のいちょう祭の目玉の一つとなるであろうボディパーカッションは、体を叩くなど、体を楽器にして音楽を表現する音楽活動のこと。赤ブロックは「残酷な天使のテーゼ」、青ブロックは「アンダー・ザ・シー」の曲に合わせ、約100人が一糸乱れぬ動きと体から発せられる音によって一つになるその光景は、想像するだけでも今から楽しみでなりません。各教室の様子をのぞいてみると、パート決めだけに止まらず、早速3～4人のグループになってパチパチと手や体を叩きながら練習している子どもたちもいました。その表情からは自然と笑みがこぼれていました。

計画しては立て直しを何度も繰り返し、やっとたどり着いた今年度のいちょう祭。これまでの過程や苦労にもみんなが思いを馳せて、後々にまで語り継がれるような素敵な「第55回いちょう祭」をみんなの手で・・・。



## 地域の皆様にもご協力いただいで・・・

先週は『南西中学校区青少年健全育成を願う会』の皆様による「朝の声かけ・あいさつ運動」を実施しました。本校では、PTAによるあいさつ運動も展開しているところでしたので、いつもより多くの大人が子どもたちの登校を見守りました。『願う会』では、会として目指す子どもたちの姿の一つに「明るく、元気にあいさつする子ども」を掲げており、『願う会』発足以来の活動として、小中で連携しながらこれまで取り組んできました。会員の皆様、そして保護者の皆様の声かけに触発されて、いつもより元気に大きな声で、また自分から先にあいさつをする子どもたちが多かったように感じました。

